

泌尿器癌の克服を目指して 患者個々にベストな医療を提供



金沢大学大学院医薬保健学総合研究科
泌尿器集学的治療学 教授

みぞかみ あつし
溝上 敦氏

1987年 産業医科大学病院 泌尿器科勤務
1988年 産業医科大学大学院
1992年 産業医科大学医学部泌尿器科 助手
1992年 Wisconsin大学Comprehensive
Cancer Center留学

2000年 金沢大学医学部泌尿器科 助手
2004年 金沢大学医学部泌尿器科 講師
2013年 金沢大学医学部泌尿器科 准教授
2016年8月 現職

泌尿器癌(前立腺癌、腎癌、膀胱癌)の診療と研究に取り組む金沢大学附属病院泌尿器科。北陸の泌尿器医療の中枢としてエキスパートの育成にも力を入れています。「医師は患者さんへの思いやりが大切」と語る溝上敦教授に、当科についてお話しいただきます。

患者に最適最善の集学的治療

泌尿器科は、主に副腎・腎臓・尿管・膀胱・尿道、そして男性の生殖器官である前立腺などの疾患を診ます。当科では男性の前立腺肥大症や女性の骨盤臓器脱、尿路結石症、排尿障害、性感染症、男性更年期障害、腎移植などにも幅広く対応しています。入院患者の7〜8割は癌疾患によるものです。なかでも前立腺癌は日本における男性悪性腫瘍の罹患率の第1位です。金沢大学泌尿器科がロボット手術を導入したのは2008年、日本の医療機関で3番目です。最初にロボット手術は前立腺癌に保険適応され、現在泌尿器科では腎癌、膀胱癌、副腎腫瘍、骨盤臓器脱などに保険適応となっています。本院が備える手

術支援ロボットは3台稼働しており、病院全体のロボット手術の約45%は泌尿器科が占めています。ロボット手術の利点は、開腹手術に比べて圧倒的に出血量が少なく、細かい作業ができることにあり、これは安全性の保持と合併症の回避につながります。

前立腺癌に対する放射線治療は近年、照射方法や照射量が多様になり、選択肢が増えました。たとえば、局所進行前立腺癌にも有用とされる高線量率組織内照射は、通常十数本の針を前立腺に刺して線源を挿入して12〜24時間かけて2〜3回繰り返し返す治療法です。当科では2014年度からこれを1回の照射で短時間に行うことにより、患者さんへの負担をかなり軽減させています。全国で最も早く1回照射を採用し、すばらしい治療効

果を上げています。また、泌尿器科系の癌に対して、手術や放射線治療だけでなく、化学療法・免疫療法・ホルモン療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。

患者の診療と研究を推進

わたしたちはアカデミックな機関ですから、診療だけでなく、臨床研究や基礎研究も重視しています。前者は、臨床データに対し統計学的解析を行い、知見を得る研究。後者はたとえば、癌の発症・進行・転移の機序解明、そして治療法を探索します。癌だけでなく、性感染症などの泌尿器科に関する基礎研究なども積極的に取り組んでいます。研究と

目の前の患者



昨年11月の日本泌尿器科学会中部総会で溝上教授は会長を務めた。※ポスターの写真はすべて教授による撮影